

鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	生命工学			
科目基礎情報							
科目番号	0066	科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	総合イノベーション工学専攻(環境・資源コース)	対象学年	専2				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	プリントを配布する。参考書:「生命と物質-生物物理学入門」永山,(東京大学出版会), 「Molecular Biology of the Cell」B. Alberts et.al.,(Garland Science)他						
担当教員	丹波 之宏						
到達目標							
分子生物学の用語に慣れると共に、生体分子やその集合体の振る舞いを物理的、定量的に理解している。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1; 生体分子やその集合体の振る舞いを定量的に理解している。	生体分子やその集合体の振る舞いを定量的に理解し説明できる。	生体分子やその集合体の振る舞いを定量的に理解している。	生体分子やその集合体の振る舞いを定量的に理解していない。				
評価項目2; 生体分子やその集合体の振る舞いを物理的に理解している。	生体分子やその集合体の振る舞いを物理的に理解し記述できる。	生体分子やその集合体の振る舞いを物理的に理解している。	生体分子やその集合体の振る舞いを物理的に理解していない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	生物学から得られた知見を工学的・医学的に応用するには、その諸現象を物理的な側面から理解しておくことが重要である。講義では分子生物学の用語に慣れると共に、生体分子やその集合体、すなわち分子機械であるタンパク質や、その機能発現の場である脂質膜、ひいては細胞の構造や機能について物理的、定量的な理解を深める。						
授業の進め方・方法	(1) この授業は学習・教育目標(B) <基礎>およびJABEE基準1. 1(c)に対応する。(2) 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。						
注意点	(1) 到達目標1~4の習得の度合を学年末試験、レポートにより評価する。評価における「知識・能力」の重みの目安は1~4を各25%とする。(2) 熱力学および電磁気学の基礎を理解していること。(3) 学年相当の英語力があること。(4) 授業で保証する学習時間と、予習・復習(定期試験のための学習も含む)に必要な標準的な学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。(5) 自己学習を前提として適宜求められた課題を提出すること。課題の評価は学年末試験に最大20%まで加味する。(6) 学年末試験(定期試験)にて60%以上の得点を得たものを合格とする。再試験は行わない。(7) 単位修得要件として学業成績で60点以上を取得すること。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	1. 分子生物学で使われる用語を理解している。2. 生命、細胞、生体分子とその集合体の構造と機能、それらの概要を理解している。				
		2週	上記1, 2, 3. 生体分子とその集合体の特性を定量的に理解している。				
		3週	上記1, 2, 3				
		4週	4. 生体分子とその集合体の特性を物理的に理解している。				
		5週	上記4				
		6週	上記3, 4				
		7週	上記4				
		8週	上記4				
後期	4thQ	9週	上記3, 4				
		10週	上記3, 4				
		11週	上記3, 4				
		12週	上記1, 2, 3				
		13週	上記1, 2, 3				
		14週	上記1, 2, 3				
		15週	上記1, 2, 3				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	実験	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	0	100